

## 令和7年度 第4回神戸市就学・教育支援委員会

### 議事要旨

- 1 開催日時 令和8年2月12日（木）15時00分～17時00分
- 2 開催場所 神戸市総合教育センター701号室
- 3 出席委員 石倉委員長、中尾委員（オンライン）、小林委員、上原委員、高田委員、中西委員、河崎委員、関口委員、西田委員、二宮委員  
オブザーバー 前田校長、三瀬校長、島崎園長
- 4 議事  
「視覚・聴覚障害教育の充実」（資料1）

●委員 ○事務局 ◇オブザーバー

#### 【視覚・聴覚障害教育の充実】

●委員長

- ・事務局より、視覚・聴覚障害教育の充実に関する取り組みについて報告をいただいた。
- ・まず、視覚障害に関する地域校（13校）への巡回フォローの対象人数は。

○事務局

- ・13人。学校によっては複数回行くところもあり、合計16回訪問している。

●委員長

- ・見え方に課題があると言われた児童生徒で、巡回フォローをしていない子どもたちについては、フォローが入らなくても大丈夫だったのか。状況を教えていただきたい。

○事務局

- ・見え方に課題のある児童生徒が在籍している学校に対して、ひとみ教室から連絡し、状況を確認している。電話での相談により対応が済んでいる学校にはフォローしていない。

○事務局

- ・聴覚についても同様であり、児童生徒の中には、既にきこえとことばの教室に通っており、通級による指導を受けている、という話もあった。

●委員

- ・聴覚障害の巡回フォローについて、小学校はきこえとことばの教室、中学校は総合聴覚センターと連携して対応しているということか。

○事務局

- ・その通り。きこえとことばの教室に通学していても、巡回フォローに来てほしいという学校もあり、対応させていただいた事例もある。

●委員

- ・巡回フォローしたことにより、ハード面やソフト面で具体的にどのように改善されたのか、教えていただきたい。

○事務局

- ・補聴援助システム（ロジャー）のパスアラウンドマイクについて、学校にはあるが使えていなかったということがあった。実際に使い方を説明させてもらおうと、今後は有効に活用していきたいと話して

いた。その他、聴覚に障害のある生徒について、環境面に関する配慮についてアドバイスをを行った。

●委員

- ・巡回フォローによる改善事例について、他の学校にも情報共有していただきたい。事例が共有されれば、先生方の気づきにつながり、学校も変わっていく。
- ・神戸祇園小学校は歴史があって、いろいろな工夫がされているので、巡回フォロー時に出た疑問点は、神戸祇園小学校の先生とも共有するとよい。

●委員

- ・特に小学校段階で、発音や文法的なところなどがあまり身につけておらず、国語の授業で専門的な教育がなかなか進んでいないことがあるので、より良い指導ができるようになればよい。
- ・地域校に難聴学級が開設されると、それぞれの学校で学ぶことになる。子供同士が、障害について悩みを話し合う交流の場作りにも取り組んでもらいたい。

●委員

- ・盲学校に通学していない視覚に障害のある児童生徒については、学校で困っていることをなかなか言えないことがある。巡回フォローの取り組みが広がり、学校で生活しやすくなっていけばよい。
- ・盲学校中学部と地域の中学校でも、交流及び共同学習を開始しているが、盲学校生徒の社会性が発達していくような素晴らしい取り組みであり、続けていただきたい。

●委員長

- ・交流及び共同学習は、文部科学省が言っている日本型のインクルーシブ教育システムのなかでは重要視されているところ。視覚障害の人数も多くはなく、そういった子供たちとの交流の場が、通常の学級の子供たちの方にもあるというのも大事なところ。引き続き、実施していただきたい。

●委員

- ・この取り組みは、継続的に実施するのが良い。交流だけではなく、共同学習の視点をしっかりとをもって、進めていただきたい。

●委員長

- ・一緒に勉強していくことは、使っている教材や学習進度の違いから難しさがあると思うが、今後どのように進めていく予定か。

○事務局

- ・いろいろなつながりを持てるよう、お互いの校長先生同士で話をしている。来年度は、音楽会などの行事を一緒にしたいという話も出ている。  
また、評価についても非常に難しいが、将来的に学習をずっと一緒にできるようになれば、定期テストも受けることができれば、ということも話している。

●委員長

- ・大学では、視覚・聴覚障害の学生と一緒に授業を受けて、試験時間は違うが、同じ試験を受けている。今後そのような取り組みが進んでいけば、他都市に先駆けた先進的な取り組みになっていく。

◇オブザーバー

- ・特別支援学校では、近隣の学校と交流している（いぶき明生支援学校は井吹西小学校、青陽須磨支援学校は須磨翔風高校）。同一敷地内で一体的に整備している灘さくら支援学校と灘の浜小学校では、子供たちが行き来できるので、昼の時間に小学校高学年の子供たちが教室に入って一緒に遊んでいる。共同学習では、肢体不自由部門の児童が灘の浜小学校へ行き、学習している。最初は緊張していたが、手を挙げて発表する姿も見られたので、意味のある共同学習だったと思っている。

- ・その他、車椅子洗浄機を開発するため、科学技術高校の生徒が、灘さくら支援学校高等部肢体不自由部門の生徒の意見を聞きに来たことがあり、ヒアリングをもとに改良するなどの取り組みをしていた。

●委員長

- ・兵庫県内では、県立阪神昆陽特別支援学校も、同じ敷地内で通常校と一緒に学習を進めている。今後、そういった取り組みを神戸市や兵庫県で広げてもらいたい。

○事務局

- ・視覚・聴覚障害教育については、令和5年度に部会を立ち上げて委員の皆様から多くの意見をいただき、令和6年度に意見をまとめていただいた。
- ・いただいたご意見を踏まえて、教育委員会でも検討を進め、今年度から地域校への巡回フォローや、市立盲学校中学部における交流及び共同学習を開始した。来年度は、神戸祇園小学校以外に難聴学級を設置する予定で、目に見える形で前に進んでいる。
- ・委員の皆様からさまざまな助言をいただいたお陰で、視覚・聴覚障害教育の充実に向けて取り組みを進めることができた。この場をお借りして感謝申し上げたい。